

Made in Aomori House

12

木が大好きな施主と、 木を知り尽くした こだわりのリノベーション

有限会社 林工務店

文=井藤 雪香 写真=山本 東
text:Yukika Ito photo:Azuma Yamamoto

HAYASHI KOMUTEN



鉄骨系住宅を木の温もりあふれる空間に断熱改修

青森に適した低燃費な木の家を手掛け、地産地消に積極的に取り組む林工務店。今回ご紹介するのは、大手ハウスメーカーで建てた築40年の鉄骨系住宅を断熱リフォームした浅利さんのお宅です。親族が同社で家を建てたことがきっかけで、木をふんだんに使う同社のセンスに惚れ込み、1998年に増築を依頼。その後も小規模な改修を重ねてきました。

子どもたちが巣立ち、夫婦2人になった住まい。リノベーションの依頼を受けた代表の林陽一さんは、先代からのお付き合いであるご夫妻に快適に住まえる終の棲家となるよう、プランを作成。ご夫婦の要望である「木で囲まれた空間」であることに加え、温度のバリアフリー化

も重視したプランです。鉄骨ユニット工法住宅を木質化し断熱工事を施す大規模改修は制約が多く、とても難易度の高いものですが、定年後の世代が快適に過ごすためには欠かせない工事です。

内部の壁や天井の組み替え、鉄骨のユニットの隙間を塞いで居住空間の気流を止めたり、一般的な木造住宅では使わないような高性能の断熱材を使うなど、特殊な工事を経て、水回りも含む1階部分の室温をバリアフリー化。リノベーション前はリビング以外の室温が極めて低かったのですが、全室暖房で20～22度に保ち、暖房費を抑えつつも暖かく快適な暮らしを実現しました。

天井まで木に包まれた、ぬくもりあるリビング。職人渾身のリブ天井が圧巻





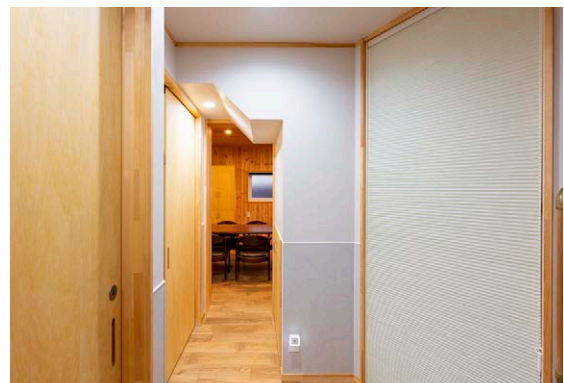
リブの意匠とダウンライトの組み合わせでモダンな雰囲気演出

木を知り尽くした 職人の技

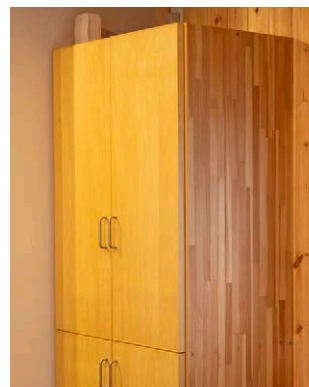
床も、壁も、天井もリビングは木で囲まれています。特徴的なリブ天井から家具まで、電化製品以外は熟練の職人による造作です。リブ天井には約400本もの木材が使われており、1本1本の加工には大変な労力がかかったとのこと。節がなく綺麗な部分を選んでカットし、塗装に至るまで自社の職人による手作業です。「当初は天井だけはクロスの子でしたが、『木のほうが格好いい』とご提案くださって。完成してみるとその通りでした」とご主人。窓枠や、雑多なものを収納できる造作家具、キッチンの棚まで全てが職人の手仕事によるもの。コンクリートの無機質なものに囲まれて暮らした経験があるご主人にとって、木に囲まれた暮らしは全く違うもの。「見た目に温もりが感じられて落ち着きます」と目を細めます。



リビングの棚も全て
木の質感を感じられる造作



温度のバリアフリー化により、1階の全室が快適な温度で保たれる

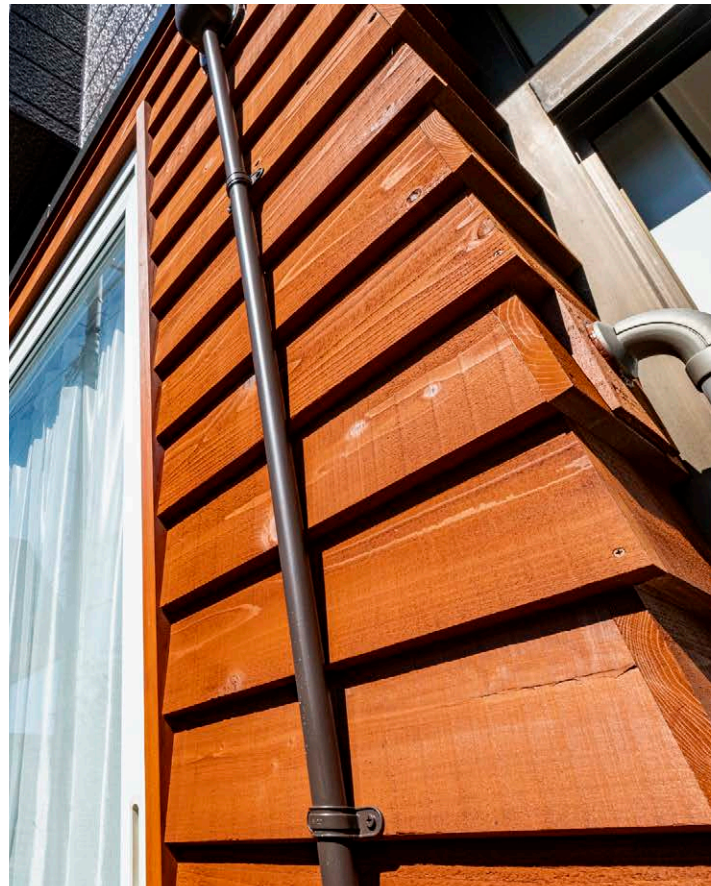


キッチンに据えた食器棚も造作し統一感ある空間に

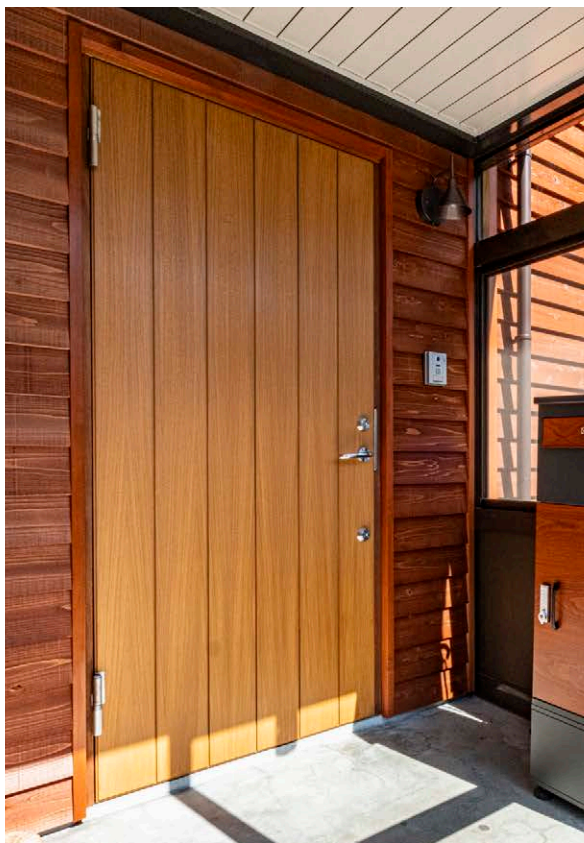
青森県産材への考え方

木の種類によるメリット・デメリットを考慮しながら、プランによって木材を使い分けている同社。地産地消の考え方から「使えるところは積極的に青森県産材を使っていく」と、林さんは話します。「例えば外装材でいえば、建材メーカーのものは将来的に必ず廃番になってしまいます。長く使うとなるとメンテナンスが欠かせないので、10年、20年経った時に廃番で修理できないから全部取り替えとなると、すごく無駄になってしまいますよね。一方で、地元の木がなくなることは考えにくい。修理となったときに、遠くの木をわざわざ切ってもらうのか、隣の山の木を切ってもらうのか。時間的にもコスト的にも、手に入りやすいものが一番いいと思っています」。

浅利邸では、リビングのリブ天井の他、リノベーションした1階部分の外壁に青森県産スギを使用しています。玄関に海外製の木製ドアを採用したので、その雰囲気に合わせて板張りに、ご夫婦の好みに合わせて茶色い塗装を施しました。ポイントで県産材も使った住まいに、ご夫妻は大満足です。



青森県産杉板を使用し、ブラウンカラーに塗装した外壁。メンテナンスも容易にできる



玄関には重厚感ある海外製の木製ドアを採用。板張りの外壁とマッチするデザイン

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
 施工部分：1階部分及び木造増築部・断熱改修
 改修部位面積：48.03㎡
 完成年月日：2023年12月

設計者：有限会社 林工務店
 施工者：有限会社 林工務店

[県産材の使用状況]

内装材：スギ
 外装材：外壁の一部にスギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 林工務店

青森県青森市大字石江3丁目16-2
 Tel:017-788-1713 Fax:017-788-1717
 kikuizumi41@gmail.com
<https://www.884c.org/>

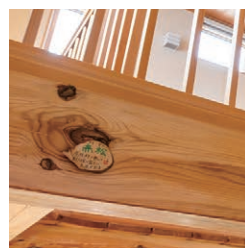
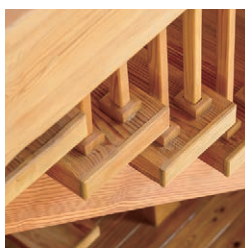


木の個性を生かして 青森らしさ溢れる家づくり

有限会社 岩木建設

文=井藤 雪香 写真=松川 雄史

text:Yukika Ito photo:Yuji Matsukawa



さまざまな木の表情に出会えるモデルハウス

十和田市を拠点に、県産材をふんだんに使った家づくりを展開する岩木建設。今から15年ほど前、事務所敷地内に完成したモデルハウス「いわ木の家」は、当時当社が保有していた県産材を含むさまざまな種類の木材を使い、「それぞれの木をどう生かすか」をテーマに作った家。樹種ごとに表情が異なる、多彩な無垢の木に囲まれた空間が特徴です。

玄関から感じられる木のぬくもり。リビングに入ると、天井やフローリング、柱、階段とそこ此処に溢れる木々に囲まれて、まるで森の中にいるかのような。リビングの天井はスギ。フローリング、階段に使用しているのは、木目が美しく光沢のあるカラマツです。赤みがかった色が特徴的なカラマツは、若い木では比較的色彩が淡く、樹齢が増すと濃くなるという性質があります。同モデルハウスでは、階段に後者の赤みの濃いカラマツを使い、違いを楽しめるよう工夫を凝らしています。

各所に配した柱はそれぞれ異なる樹種を採用。空間にインパクトを与える珍しいエンジュをはじめ、クリやスギ、そして和室の柱はイブキとイチイです。それぞれの木の個性がインテリアそのものとなり、空間に溶け込んでいます。

そのほか引戸にはキリ、和室のフローリングにはカバザクラ。トイレやサニタリールームなど水回りには青森ヒバをふんだんに使用しています。青森ヒバは消臭・防虫・抗菌効果が高く、ヒバ特有の良い香りを楽しめるのも特徴。その香りはリラックス効果をもたらすことから、主寝室も総ヒバ造りです。

今なお木の香りする家は、適材適所で住まう人を快適に、心地よくしてくれます。完成から時間が経過していることにより、深みある色合いに変化した木の美しさも見どころに加わりました。



いわ木の家





リビングの一角に、家全体を暖める薪ストーブを設置。
遠赤外線放射機能を持つ十和田石を周囲の壁材に採用し、効果を高めている。

機能性を備えた 長期優良住宅

社長の岩木勝志さんは、大工、特に木工職人として長く経験を積んできました。その経験を存分に発揮して手掛けた同モデルハウス。8寸角の通し柱2本と小屋梁に幅約30cmのアカマツの太鼓梁を設置したり、約8mある長材を構造材としたりするなど、随所に職人技が光ります。そうして強く美しい木の家に仕上げることで、長期優良住宅を実現させました。

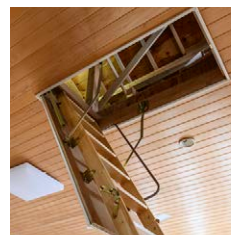
外断熱と二重通気を組み合わせた工法を取り入れているのも特徴です。夏は床下ダンパーを開き小屋裏ファンを廻すことで、外壁の熱ごもりを排出し、涼しく。冬は床下ダンパーを閉じ、小屋裏ファンを停止して、熱を逃しにくくします。熱循環を考慮した空間設計により、薪ストーブ一台で家全体が暖まります。

スギ床材は厚さ約3cmあり、合板のフローリングの約2倍の厚みがあるものを採用しています。触れてみるとほんのりと温かみを感じられて、スリッパを履かず素足で心地よく過ごすことができます。

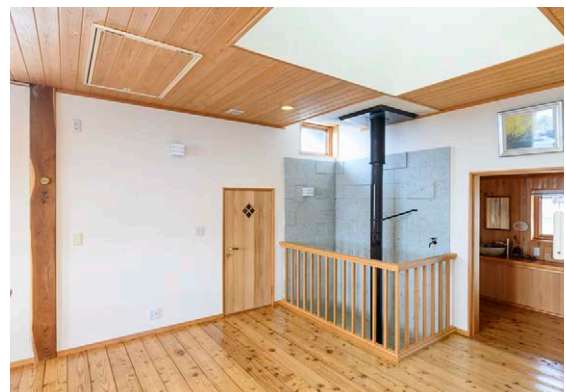
「木には快適に暮らすための機能がたくさん備わっています。梅雨時期も湿度調整により快適。紫外線を吸収することにより目に優しい。衝撃を吸収してくれるから転倒時も大きな怪我を防いでくれる。さまざまな効果があるんですよ」と岩木さん。そんな木の良さを最大限に引き出して、機能面でも充実した木の家を作っています。



木と塗り壁が調和した明るい空間。さまざまな樹種の木材を採用することで、遊び心をプラスしている。



換気システムの機械は小屋裏に格納されている。一年を通して、家全体を快適な温度に保つ。



子ども部屋2室と書斎を配した2階。広いホールを設けたゆとりある間取り。

県産材で 地元の気候風土に適した 家づくりを

生まれ育った地元十和田で、数十年にわたり家づくりに携わってきた岩木さん。長い経験の中で、地元で育った木を使いたいと希望する施主が増えていると感じているそう。「今では、県産材を使うことは一般的になっているのでは」と話します。

青森県では地域ごとに多種多様な樹木が生えており、そのなかで十和田周辺では全国第4位の人工林面積を有するスギを昔から使ってきたそう。「青森県では家づくりといえば津軽はヒバ、南部はアカマツと昔から言われていたようですが、このあたりはスギなんです。スギは伐採したあとの乾燥によるねじれや反りといった狂いが少なく使いやすい木です。柔らかい点がデメリットと捉えられる面もありましたが、一方で折れにくいということがここ数年で立証されています」と話すのとおり、同社では、県産スギを主に構造材として積極的に使ってきました。

「青森の木を使った家は青森の気候風土に馴染み、また使うことで青森の林業活性化の促進にもなる」。そんな想いを胸に、地元工務店だからできる家づくりを追求し続けています。

DATA | 物件概要

施設名：モデルハウス
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：146.15㎡
延床面積：197.25㎡
完成年月日：2007年9月10日

設計者：設計工房プランズ合同会社
施工者：有限会社 岩木建設

【県産材の使用状況】

構造材：アカマツ、スギ、青森ヒバ
内装材：カラマツ、スギ、青森ヒバ、ヤマザクラ
外装材：クリ柱、スギ、青森ヒバ、
デラクリート塗壁

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 岩木建設

青森県十和田市大字洞内字井戸頭175-1
Tel:0176-27-2906 Fax:0176-27-3259
iwaki@sea.plala.or.jp
http://www.iwakinoie.co.jp/



2階からリビングを見下ろす。窓側をキャットウォークにし回遊性を持たせて家事にも便利な造りに。

